

# 国道34号現地診断 (長崎県東彼杵郡東彼杵町)

令和2年12月6日に防災点検の現地診断において、国道34号86k700付近(長崎県東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷地先)の落石防止柵の背面の切土が崩壊し土砂が堆積した箇所の詳細な把握及び対応策の検討のため、学識者による現地調査を実施した。

出席者:九州大学 三谷教授、長崎大学 蔣教授

## ● テックドクターによる調査(令和2年12月6日)



### 【現地の状況について】

- ・幅5m、高さ6mに渡って表層の土砂(風化した礫混じり土砂)が降雨により緩んで崩壊。
- ・落石防護柵工背面には土砂が堆積。
- ・火山性大地の末端部に当たる高さ25m程度の斜面で、上部は耕作地として使用されている

### 【対策方法について】

- ・落石防護柵背面のポケット内に堆積している崩積土砂の撤去
- ・切土勾配1:1.2で切土し、のり面保護工として植生マット。排水路を、地盤の傾斜方向や終点側の植生繁茂状況を考慮すると起点側に整備することが望ましい。